

2025年への対応方針

1. 基本情報

【2024年3月時点】

医療機関名	医療法人 菊栄会 渋川中央病院
所在地	群馬県渋川市石原508-1
沿革	昭和57年：45床の内科・産婦人科の病院として開設。 平成13年：隣接して渋川中央リハビリ病院を開院。一般病床25床、療養病床50床を設置。 平成17年：一般病床60床に増床。 平成18年：渋川中央病院と渋川中央リハビリ病院を統合。 一般病床103床、療養病床50床を開始。 現在に至る。

2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	153床	床	60床	43床	50床	床
平均在院日数(※1)		日 29.1	日 64.4	日 355.5	日	
病床稼働率(※2)		% 67.7	% 60.5	% 86.7	%	

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来(2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	153床	床	60床	43床	50床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	今後も救急医療・急性期医療を提供していくと共に、ポスト・アキュート、サブ・アキュート機能の充実を図る。 リハビリテーション提供可能施設と透析施設を併せ持った医療機関として、回復期機能の充実を図るため、地域包括ケア入院医療管理料算定病床を急性期病床から一部転換を検討している。
-------------------	--

3. 医療機能について

診療科目	14科 (内科、外科、消化器外科、消化器内科、腎臓内科、リウマチ科、人工透析内科、血液内科、循環器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、泌尿器科、リハビリテーション科、婦人科)
------	--

現在	がん	〇	脳卒中		心血管疾患	〇	糖尿病	〇	精神疾患	〇	在宅医療
	救急		災害		へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能		透析医療 リハビリテーション								



将来(2025年)	がん	〇	脳卒中		心血管疾患	〇	糖尿病	〇	精神疾患	〇	在宅医療
	救急		災害		へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能		透析医療 リハビリテーション								

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学医学部附属病院	渋川医療センター	北毛病院
主な紹介先医療機関	群馬大学医学部附属病院	渋川医療センター	北関東循環器病院

5. 当院の特徴について

特徴的な リハビリテーション	<p>渋川地域における回復期リハビリテーション病棟は当院のみ。 リハビリスタッフ33名を擁し、365日リハビリテーションを実施している。 退院後の維持期についても、通所リハビリ・訪問リハビリを提供し、在宅生活を支援している。 脳卒中地域連携パス・大腿骨頸部骨折地域連携パスに参加しており、地域連携を実践している。</p>
特徴的な 透析医療	<p>通院困難な透析患者様に対して、車椅子ごと乗車も可能な車両で送迎を実施。 日本透析医学会教育関連施設。日本腎臓学会研修施設。 人工透析が必要な患者様へのリハビリテーションの提供。 日中に仕事をされる透析患者様の社会復帰を応援すべく月水金は夕方5時からの夜間透析も実施しています。</p>

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月より診療科目を増科し、診療体制が充実。 ・救急病院として、24時間体制で常時待機しており、緊急時・時間外・休日・救急受入応需・入院応需が可能。 ・当院には65床を備える透析室があり、170名近くの患者さんが血液透析を受けられている。 ・圏域唯一の回復期リハビリテーション病棟を有し、急性期から維持期まで切れ目のないリハビリテーションを提供している。
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> ・透析スタッフを増員し、患者様受け入れを充実させる。 ・回復期リハビリテーション病棟入院料の上位ランク算定を目指し、病棟スタッフを充実させ、急性期終了後速やかに患者様の受け入れができるよう体制を整える。 ・在宅療養支援機能を強化し、地域多機能型病院を目指す。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・内科系を中心に、各分野において高い専門性を持った医師やスタッフが急性期から慢性期まで、いろいろな疾患に対応しております。 ・当院は365日、目覚めてから就寝までフルタイムで行う生活リハビリを実践し、楽しく、希望を持って行うリハビリテーションに取り組み効果を上げています。また病室から屋外スペースにもリハビリの場を広げ、ご家庭や社会生活への復帰を目指した取り組みがされています。一日も早い「家庭や社会への復帰」、そして何より、ご自身らしさを取り戻していただくために精一杯のお手伝いをさせていただきます。回復から復帰へ新たな生活へのスタートを応援します。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【 2024 年 3 月時点】

医療機関名	北毛保健生活協同組合 北毛病院
所在地	群馬県渋川市有馬237-1
沿革	1953年 渋川協立診療所開設 1954年 名称変更 渋川診療所（10床） 1969年 新築移転（19床） 1972年 渋川診療所から北毛病院（23床） 1977年 新築移転（62床） 1986年 二期建設（増築）増床（130床） 1996年 三期建設（増築）増床（150床） 2015年 新築移転（150床）

2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	150 床	床	100 床	床	50 床	床
	平均在院日数	日	12.9 日	日	88.9 日	
	病床稼働率	%	94.6 %	%	92.8 %	

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	150 床	床	100 床	床	50 床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて医療を提供する機能を維持高度急性期後の患者受け入れも積極的に行う
-------------------	--

3. 医療機能について

診療科目	9 科 (内科、外科、大腸・肛門外科、消化器外科、精神科、眼科、皮膚科、小児科、救急科)
------	--

現在	がん	○	脳卒中		心血管疾患	○	糖尿病		精神疾患	○	在宅医療
	救急		災害		へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		人間ドック他健診事業								



将来 (2025年)	がん	○	脳卒中		心血管疾患	○	糖尿病		精神疾患	○	在宅医療
	救急		災害		へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能										

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学医学部付属病院	渋川医療センター	高崎総合医療センター
主な紹介先医療機関	北毛診療所		

5. 当院の特徴について

特徴的な 高齢者を中心とした医療	高齢者をメインとする急性期から慢性期医療、救急から在宅までを幅広く担う。高齢者の急変への対応、三次救急医療機関等での高度急性期治療後の受入れなど、「切れ目のない」医療提供を行うケアミックス病院
特徴的な 在宅への対応	在宅を支援する病院として在宅医療を提供。また、開業医や介護事業所の後方支援病院として急変時の受け皿としての病床機能、高度急性期治療後の後方支援として在宅への中間点としての病床機能を発揮。

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	人口は減少するが、高齢化が著明な地域。在宅需要が増加している。北毛病院の病床は、地域の中でも短い在院日数かつ高い病床稼働率となっている。専門病院が多いため、幅広い領域をカバーし、自院の在宅患者の他、開業医や介護事業所の在宅患者など、複数の疾患と問題を抱える高齢者へ対し総合的に対応でき、気軽に利用できる地域密着型の病院としての役割を果たしている。
当院の未来像	①高齢化とそれに伴う疾患への対応：複数の疾患をかかえる高齢者に対し、特定の専門診療ではなく、患者の症状や状況を総合的に判断する診療、高齢者の暮らしを支える医療の提供。 ②救急医療への対応：初期診療から2次救急の受入。在宅患者の急変への対応。 ③在宅への対応：在宅医療提供の他、在宅の後方支援病院として急変時の受け皿としての病床機能、高度急性期後の後方支援として在宅への中間点としての病床機能を発揮。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	2015年3月に新病院を竣工しました。北毛病院は非常に難しい病気の診断や治療ができる最先端の医療機関ではありません。しかし、ほとんどの病気の診断および初療と、多くの病気のさまざまな段階での治療にいつでも対応できる医療機関として、この渋川の地において長年地域医療の一翼を担ってまいりました。引き続き、急性期から慢性期医療、救急から在宅までを幅広く担っています。急変への対応、基幹病院からの急性期後の受入れ可能な「切れ目のない」医療提供が可能なレベルと体制を維持・発展させることができる病院を目指します。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【2024年3月時点】

医療機関名	北関東循環器病院
所在地	群馬県渋川市北橋町下箱田740
沿革	平成元年：一般病床（急性期）120床にて開院 平成10年：核医学検査装置導入 平成28年：外来棟増築 平成29年：一般病床44床を障害者病床（慢性期）として稼働 現在に至る

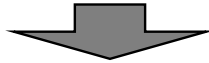
2. 病床について（病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	120 床	床	76 床	床	44 床	床
	平均在院日数	日	9.5 日	日	125.9 日	
	病床稼働率	%	85.6 %	%	96.6 %	

※1 在棟患者延べ数（年間）／（新規入棟患者数（年間）＋退棟患者数（年間））／2

※2 在棟患者延べ数（年間）／許可病床数（現在）／365

※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	120 床	床	76 床	床	44 床	床	床

2025年に向けた
病床活用の
見通し

- ・循環器疾患を中心とした高度医療を提供し、北毛・前橋地区を中心に救急医療に貢献していく。
- ・早期退院をサポートするリハビリテーションの強化を図る。
- ・地域医療を見据え高齢者医療の充実を図る。

3. 医療機能について

診療科目	12 科（内科、外科、循環器内科、心臓血管外科、眼科、整形外科、血管透析内科、リハビリテーション科、婦人科、放射線科、皮膚科、泌尿器科）
------	--

現在	がん	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	精神疾患	在宅医療	
	○	救急	災害	○	へき地	周産期	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション、人間ドック等健康診断						



将来 (2025年)	がん	脳卒中	○	心血管疾患	○	糖尿病	精神疾患	在宅医療	
	○	救急	災害	○	へき地	周産期	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション、人間ドック等健康診断						

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	群馬大学附属病院	前橋赤十字病院	渋川医療センター
主な紹介先医療機関	群馬大学附属病院	前橋赤十字病院	渋川医療センター

5. 当院の特徴について

特徴的な 一貫した医療	内科、循環器内科、心臓血管外科、リハビリテーション科等あり、患者様を中心とし各科が連携を図り、急性期から社会復帰まで一貫した医療を提供している。
特徴的な チーム医療	患者様への治療に当たり、医師、看護師、コメディカルを含めたカンファレンスを行い、共通認識の良質な医療を提供している。

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	循環器疾患を中心とした専門的な医療を提供しており、地域医療として糖尿病疾患、腎臓内科、血液透析、消化器内科等北毛地区の救急医療にも貢献している。
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> ・頭から足まで循環器疾患を中心とした高度医療や救急医療を担う。 ・「かかりつけ医」と今まで以上に連携を図り、地域医療に貢献する。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患を中心とした高度医療の提供はもちろん、地域医療とし糖尿病疾患、腎臓内科、血液透析、消化器内科等にも貢献しております。 ・早期社会復帰のサポートとなる各種リハビリテーションも充実しております。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【2024年3月時点】

医療機関名	医療法人群栄会田中病院
所在地	群馬県北群馬郡吉岡町陣場98番地
沿革	昭和42年 133床（精神科）にて精神科専門病院として開院 昭和47年 医療法人群栄会田中病院設立。131床増床し264床（精神科）に 昭和53年 精神科病棟132床増床し396床に 平成2年 内科病棟20床を設置 計416床に 平成12年 療養病棟（医療30床、介護25床）設置 計471床に 平成21年 内科病棟から障害者施設等病棟に 平成30年 療養病棟から特殊疾患病棟に

2. 病床について（病床機能ごとの病床数（一般・療養））

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	98 床	床	床	43 床	55 床	床
平均在院日数	日	日	63.7 日	1683.0 日		
病床稼働率	%	%	93.0 %	95.0 %		

※1 在棟患者延べ数（年間） / （（新規入棟患者数（年間） + 退棟患者数（年間）） / 2）

※2 在棟患者延べ数（年間） / 許可病床数（現在） / 365

※3 在棟患者延べ数（年間）、新規入棟患者数（年間）、退棟患者数（年間）は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設 等への移行
	98 床	床	床	43 床	55 床	床	床

2025年に 向けた 病床活用の 見通し	現状維持
-------------------------------	------

3. 医療機能について

診療科目	5 科（精神科、神経科、内科、心療内科、歯科）
------	-------------------------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	災害	へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能								

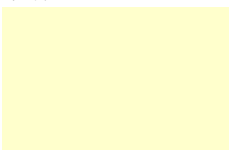



将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療
	救急	災害	へき地		周産期		小児		その他
	「その他」の具体的な機能								

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	前橋赤十字病院	第一病院	老年病付属病院
主な紹介先医療機関	前橋赤十字病院	第一病院	老年病付属病院

5. 当院の特徴について

特徴的な 	高齢者の生活支援にも力を注ぎ、介護老人保健施設、特殊疾患病棟、認知症グループホーム、居宅介護支援事業所、認知症疾患医療センターも運営
特徴的な 	

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	現代社会のストレスがもたらす心身の不調や高齢化社会における認知症の診断、治療、リハビリ等に、専門スタッフが一丸となって、地域のご家庭を支える心のこもった優しい支援者として、日々努力を重ねています。
当院の未来像	連携を推進し、医療と介護の総合的なサービスを目指し、地域で安心して暮らせる環境を提供する
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	医療と介護サービスの向上、利用者の立場に立ったサービスに努め、個人の尊厳を大切に、自立した生活が送れるよう地域との連携を強化し、保健・医療・福祉の総合的一体的サービスの推進を目指して、一生懸命ご支援させていただきます。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【 2024 年 3 月時点】

医療機関名	医療法人恒和会 関口病院
所在地	群馬県渋川市渋川1693-12
沿革	昭和11年10月 外科、泌尿器科関口診療所（東京都新宿区）開設 昭和18年5月 関口外科医院（渋川市新町）開設 昭和22年7月 住所を現在の渋川市渋川へ移転 昭和41年2月 関口病院となる 昭和63年5月 医療法人恒和会関口病院と改める 昭和63年11月 院長 関口欽五郎就任 平成27年2月 院長 関口浩五郎就任 令和4年6月 新病院へ移転 現在に至る

2. 病床について (病床機能ごとの病床数 (一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	85 床	床	35 床	50 床	床	床
平均在院日数(※1)	日	16.9 日	27.0 日	日	日	
病床稼働率(※2)	%	72.9 %	73.5 %	%	%	

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	85 床	床	35 床	50 床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	急性期医療を引き続き提供するとともに、急性期医療を終えた患者さんに対して、リハビリや退院支援などの提供、在宅医の依頼を受け在宅療養中の患者さんの受入などを強化するため、令和4年6月新病院移転時に回復期病床の増床を実施。
-------------------	---

3. 医療機能について

診療科目	12 科 (整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、内科、消化器内科 (内視鏡)、内分泌・糖尿病内科、漢方内科、麻酔科、形成外科、泌尿器科、脳神経外科、外科)
------	---

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療	
	○	救急	災害	へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション							



将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	○	糖尿病	○	精神疾患	○	在宅医療	
	○	救急	災害	へき地		周産期	○	小児	○	その他
	「その他」の具体的な機能		リハビリテーション							

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川医療センター	群馬大学医学部附属病院	井口医院
主な紹介先医療機関	渋川医療センター	北毛病院	群馬大学医学部附属病院

5. 当院の特徴について

特徴的な 診療体制	整形外科を中心とした医療を提供しているが、高齢者のプライマリケアなど幅広く対応している。急性期から回復期までの機能を持ち、在宅復帰を支援している。
特徴的な 救急体制	高齢者の外傷が主であるが、高齢者のプライマリケアも担っている。救急を断らない姿勢をとっており、直近の受入率は80%程度を維持している。

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・救急病院として、24時間365日、救急診療に対応できる体制を整えている。 ・二次医療圏の中では数少ない整形外科領域での入院、手術に対応している。 ・地域のクリニック、当院の訪問診療医より依頼を受け在宅療養中の患者さんの受入をしている。（レスパイトを含めて。） ・訪問看護、居宅介護事業所などの在宅医療を強化し、患者さんの退院後のケアを行っている。
当院の未来像	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期機能病床を充実させ、地域医療に貢献する。 ・より高度な手術に対応し、整形外科の更なる充実を図る。 ・地域の病院、診療所、介護施設などとの連携を深め、患者さんにとって利便性の高い病院を目指す。 ・在宅医療を強化し、患者サービスを充実させる。
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会より信頼される病院を目指し、患者さんが必要とする医療の提供をしていきます。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【2024年3月時点】

医療機関名	母心堂平形眼科
所在地	群馬県渋川市石原966
沿革	大正年間中頃 平形医院として開設される。 昭和26年 平形医院に病棟建設、有床診療所となる。 その後、母心堂平形医院眼科として許可病床9床で運営されていた。 平成25年 母心堂平形眼科、病床数5床で届出を行い、診療を行っている。

2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	5床	床	床	床	床	5床
	平均在院日数	日	日	日	日	
	病床稼働率	%	%	%	%	

※1 在棟患者延べ数(年間) / (新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	5床	床	5床	床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現在、病棟建設及び設備更新の計画中であり、当院隣接の県道拡幅工事予定に合わせ、県と協議の上、実施したい。 眼科手術や入院管理が必要とされる眼疾患に広く対応できる体制を構築する予定である。
-------------------	--

3. 医療機能について

診療科目	1科(眼科)
------	--------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	周産期	小児	〇 その他
	「その他」の具体的な機能		眼疾患全般の診療、小児眼科、ロービジョン対応			



将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	周産期	小児	〇 その他
	「その他」の具体的な機能		眼科全般、小児眼科、ロービジョン対応、眼検診ドック			

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川中央病院	群馬中央病院	群馬大学附属病院
主な紹介先医療機関	群馬大学附属病院	いその眼科	高崎 佐藤眼科

5. 当院の特徴について

特徴的な 小児眼科医療	乳幼児期の眼疾患の診療を特に行っている。 県立小児医療センター各科及び県内小児科から、眼疾患の疑いの患者の紹介をうけ、診断・治療に当たっている。 必要に応じ、国立成育医療センターとも連携を図って対応している。
特徴的な ロービジョン対応	小児から成人まで、視機能回復困難な障害のある対象患者に対し、残存視機能の有効活用ができるよう指導・相談を行う。県立盲学校などの支援施設とも、連携を行っている。

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	病棟設備更新のため、外来診療を中心にやっているが、その中で当院で果たせる眼科診療全般について取り組んでいる。医療機器の進歩に合わせ、適切な装置の導入を図り、時代に即する医療の提供を心がけている。地方における人口減少にも関係するが、医療従事者の確立が課題となっている。
当院の未来像	防災・省エネルギー・バリアフリーを勘案した施設への移行、受診し易い、医療体制を構築する。 眼科医療を通じて、視覚の健全な保持を保ちつつけるよう、長寿社会に貢献できればと考えている。
その他 (県民・受診者へのメッセージ等)	良好な眼の働きを保ち続けるのは、健康な生活を送るために、大切です。ほんの少しでも異常を感じる時は、早目の検査を受けることで、疾病が早期に発見されることもあります。 眼鏡ややコンタクトレンズの使い方も、誤って用いるために、不便さを感じてしまうこともあります。眼科専門医での検診をうけて下さい。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【 2024 年 3 月時点】

医療機関名	有馬クリニック
所在地	群馬県渋川市有馬 1191-3
沿革	1993年6月に現院長神保進により8床を有する有床診療所として設立、診療開始す。主に泌尿器科疾患患者と慢性腎不全に対する血液透析患者を診療対象として診療に当たって来ました。

2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等
	8 床	床	8 床	床	床	床
	平均在院日数(※1)	日	5.0 日	日	日	日
	病床稼働率(※2)	%	60.0 %	%	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来(2025年)	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	廃止	介護保険施設等への移行
	8 床	床	8 床	床	床	床	床

2025年に向けた病床活用の見通し	現在と別段変わりはありません。現状維持です。
-------------------	------------------------

3. 医療機能について

診療科目	科 (泌尿器科 血液透析科)
------	------------------

現在	<input type="checkbox"/> がん	<input type="checkbox"/> 脳卒中	<input type="checkbox"/> 心血管疾患	<input type="checkbox"/> 糖尿病	<input type="checkbox"/> 精神疾患	<input type="checkbox"/> 在宅医療
	<input type="checkbox"/> 救急	<input type="checkbox"/> 災害	<input type="checkbox"/> へき地	<input type="checkbox"/> 周産期	<input type="checkbox"/> 小児	<input type="checkbox"/> その他
	「その他」の具体的な機能	炭酸ガスレーザーにての皮膚腫瘍切除が可能です。				

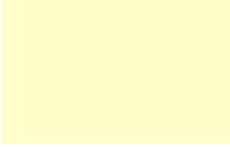
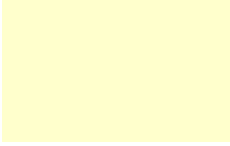


将来(2025年)	<input type="checkbox"/> がん	<input type="checkbox"/> 脳卒中	<input type="checkbox"/> 心血管疾患	<input type="checkbox"/> 糖尿病	<input type="checkbox"/> 精神疾患	<input type="checkbox"/> 在宅医療
	<input type="checkbox"/> 救急	<input type="checkbox"/> 災害	<input type="checkbox"/> へき地	<input type="checkbox"/> 周産期	<input type="checkbox"/> 小児	<input type="checkbox"/> その他
	「その他」の具体的な機能					

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関	渋川医療センター	渋川地区医師会会員	
主な紹介先医療機関	渋川医療センター	群馬大学附属病院	済生会前橋病院

5. 当院の特徴について

特徴的な 	泌尿器科の専門クリニック及び慢性腎不全に対して血液透析を施行しております。
特徴的な 	現在と特別変わり無

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	泌尿器科患者数は増加傾向に有りますが透析患者数は減少しております。
当院の未来像	現在と別段変りないと思っております。
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	泌尿器科専門クリニックです。泌尿器科疾患にはどんなことでも対応します。

2025年への対応方針

1. 基本情報

【2024年3月時点】

医療機関名	ウェルネスクリニックあじさい
所在地	群馬県渋川市石原113
沿革	平成4年10月 クリニックオガワ開院 平成11年7月 医療法人開設 令和5年8月 クリニックオガワ 閉院 令和5年9月 北関東循環器病院分院ウェルネスクリニックあじさい として再開

2. 病床について (病床機能ごとの病床数(一般・療養))

現在	合計					
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	
	19 床	床	19 床	床	床	床
	平均在院日数	日	0.0 日	日	日	日
	病床稼働率	%	0.0 %	%	%	%

※1 在棟患者延べ数(年間) / ((新規入棟患者数(年間) + 退棟患者数(年間)) / 2)

※2 在棟患者延べ数(年間) / 許可病床数(現在) / 365

※3 在棟患者延べ数(年間)、新規入棟患者数(年間)、退棟患者数(年間)は直近の病床機能報告で報告した数値を使用してください。



将来 (2025年)	合計						廃止	介護保険施設等への移行
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期				
	19 床	床	19 床	床	床	床	床	

2025年に向けた病床活用の見通し	現状、内部的な観点から産科を再開出来ていないですが、産科の早期再開を目指して、医師の確保等活動中です。
-------------------	---

3. 医療機能について

診療科目	1 科 (産婦人科)
------	------------

現在	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	〇 周産期	小児	その他
	「その他」の具体的な機能					


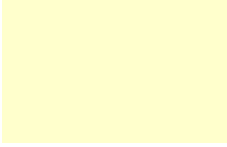


将来 (2025年)	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	在宅医療
	救急	災害	〇 へき地	〇 周産期	小児	その他
	「その他」の具体的な機能					

4. 連携している医療機関について

主な紹介元医療機関			
主な紹介先医療機関	県立小児医療センター	群馬大学病院	前橋日赤病院

5. 当院の特徴について

特徴的な 	茨川市で唯一の常勤医師の産婦人科専門医療機関です。
特徴的な 	

6. 現状と今後の方針等

当院の現状	前医院クリニックオガワの院長体調不良を原因として医院の診療継続が困難になった為、北関東循環器病院が地域の産婦人科の重要性・必要性を考え資金援助し、分院として令和5年より再スタートしたところです。
当院の未来像	地域の医療情勢を鑑み、急ぎ産婦人科外来のみの再開であるが、県北部の産科医療の必要性・重要性から再開を模索中、多方面に向け鋭意画策中です。
その他 (県民・受診者への メッセージ等)	地域医療構成の中で住民の利便性は勿論の事ながら、他診療科目との連携の観点からも常設産婦人科の必要度は非常に高いですし、外来のみでも若年時の婦人科疾患、妊娠初期、産後フォロー等の介在による少子化対策の一助になると思います。 若年者人口が減ることで、医療に限らず全ての産業で労働人口は劇的に減少しています、益々地方の人口は減少の一途、輪をかけて山間部の人口は減っています。高齢化対策には公的資金が潤沢に供されていて参入も多いのですが、少子化対策は結果が見えるような施策が打っていません、産婦人科医療の末席にいる者として、様々な方々の智慧と有意義な資金を使って頂く事を切に願う次第です。